

広島市立安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	腹腔鏡下前立腺全摘除術の検証 -多施設共同研究-
研究責任者 (所属科名)	泌尿器科 主任部長 三田耕司
本研究の目的・意義	<p>限局性前立腺癌に対する前立腺全摘除術は癌制御の観点から効果的な治療法です。しかしながら解剖学的に骨盤底の最も深い位置にある前立腺に対する本手術は難易度が高く、かつては合併症が多い手術でした。1990年代に入り前立腺を取り巻く詳細な解剖を基にした術式が開発され再現性の高い術式へと変遷を遂げました。</p> <p>海外では前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘除術（LRP）は1997年に報告され、その後本邦においても開始され今日に至っています。LRPは内視鏡を用いることで骨盤内を詳細に観察することが容易であり、開放手術（Open radical prostatectomy: ORP）に比較して術野の共有が容易であるという大きなメリットがあります。近年、本邦でもロボット支援下手術（Robot assisted radical prostatectomy: RALP）が増加しLRPは減少傾向にあるが、2015年までに14,938例が施行され依然として前立腺癌に対する代表的な術式です。</p> <p>LRPはORPに比較して低侵襲性が高い術式とされますが、そのアウトカムについての詳細はいまだに不明な点も多く、日本人を対象とした多数例での報告は少ないのが現状です。</p> <p>そこで今回、経験症例数の比較的豊富な多施設（3施設）によるLRPの治療成績を後方視的に検証します。</p>
調査方法・調査期間	<p>調査方法：後ろ向き観察研究です。</p> <p>2007年1月1日から2016年12月31日までに広島市立安佐市民病院、中津第一病院、呉医療センターにおいて対象期間に内分泌未治療前立腺癌に対し腹腔鏡下前立腺全摘除術を施行した方の情報を調査します。</p> <p>調査期間：2018年1月から2018年4月までです。</p>
該当資料・データ	<p>★対象となる患者様</p> <p>2007年1月1日から2016年12月31日までに広島市立安佐市民病院において対象期間に内分泌未治療前立腺癌に対し腹腔鏡下前立腺全</p>

	<p>摘除術を施行した方。</p> <p>★利用する情報</p> <p>電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。</p>
個人情報の取り扱い	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会・学術論文で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。</p>
共同研究機関	<p>中津第一病院、呉医療センター</p>
本研究の資金源 (利益相反)	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。</p>
お問い合わせ先	<p>広島市立安佐市民病院 泌尿器科 主任部長 三田耕司</p> <p>電話：082-815-5211（代表）</p>
備考	